|  |  |
| --- | --- |
| 氏名（所属） | 石川理人(工学院大学) |
| (1)計算モデル | ・T71 |
| (2)用いた手法  ソフト名・作成者 | ・3次元差分法  ・GMS(防災科学研究所)  ・作成者：青井真（2000年作成～2009年修正） |
| (3)参考文献 | ・青井真・藤原広行 (1998). 不連続格子を用いた4次精度差分法による波形合成, 第10回日本地震工学シンポジウム論文集, Vol. 1, pp. 879-884  ・青井真・早川俊彦・藤原広行 (2004). 地震動シミュレータ：GMS, 物理探査, Vol. 57, pp. 651-666 |
| (4)有効振動数と  時間刻み | ・有効振動数は0～0.7 Hz(PCのメモリとの関係で可能な範囲で計算)  ・刻み時間は0.005sで計算 |
| (5)メッシュサイズ | ・計算領域は出題の基準点より北に75㎞移動した東経138.6454、北緯34.87595より東方向に210㎞、北に195㎞とした。吸収境界は水平方向に6㎞幅で設置。グリッドサイズは深さ0～10㎞を100m四方、10㎞以深は300m四方のグリッドを設定。 |
| (6)点震源のモデル化 | ・震源時間関数は出題通りの継続時間1秒の三角形関数  ・応力項にモーメントを加える方法（Stress Source Formulation :SSF） |
| (8)面震源のモデル化 |  |
| (9)減衰の導入法 | ・時間領域で非弾性減衰の効果を導入(Graves, 1996) |